科目名	治療総論Ⅰ ーリハビリテーション	講師	非常勤講師
履修時期	2年　前期	単位数	1
		時間	30(内12)

＜科目設定理由＞

『治療総論Ⅰ』は、「医療概説」・「放射線医学」・「リハビリテーション」で構成される。

医学の父と呼ばれるヒポクラテスは「病気は人間が自らの力をもって自然に治すものであり、医者はこれを手助けするものである」と語っており、治療や医療行為は人間の身体にもともと備わっている治癒力を助けるものでなくてはならない。すなわち、患者の病態を改善し健康を回復するための医師による行為が治療である。

医学は病気を診断し治療を行うことで、病気を治癒させたり、現在生じている症状を緩和・消失させ今後おこりうるであろう健康問題を低減させる。看護者が対象の自然治癒力を引き出し、回復過程を支援するためには、医師の行う診断・治療についての理解が不可欠といえる。

ここでは、リハビリテーション医療の特徴と役割を学び、障害をもつ人々の生活の質向上のためのアプローチについての基礎的知識を得ることをねらいとして科目を設定する。

学習目標	リハビリテーションの定義・目的・対象が分かる。 国際生活機能分類とその構成要素が分かる。 リハビリテーションの展開と方法が分かる。
学習内容	1. リハビリテーションとは ・リハビリテーションの概念と意義 ・リハビリテーションの対象と場 2. リハビリテーションの展開と方法 ・ボディメカニクスと運動機能評価 ・日常生活動作におけるリハビリテーション ・ADLにあわせた自助具 3. 理学療法・作業療法・言語療法の特徴と事例に基づく演習 ・脳血管疾患（急性期・回復期） ・急性心筋梗塞 4. 多職種によるチームアプローチ
授業形態	講義・グループワーク・演習
評価方法および評価の観点	筆記試験の他、出席状況も勘案のうえ評価する
テキスト	系統看護学講座　別冊「リハビリテーション看護」 医学書院
参考資料・図書	授業内で適宜提示の予定
履修上の留意事項・受講条件	予習・復習をして受講のこと